

学生海外調査研究	
パリ・オペラ座附属図書館におけるバレエ・デ・シャンゼリゼに関する史料調査	
深澤 南士実	比較社会文化学専攻
期間	2012年7月4日～2012年7月13日
場所	フランス
施設	パリ・オペラ座附属図書館、シネマテーク・ド・ラ・ダンス

## 内容報告

### 1. 調査の目的

本調査の目的は、バレエ・デ・シャンゼリゼ Les Ballets des Champs -Élysées (1945-1951) に関するパリ・オペラ座附属図書館における全史料の調査であった。バレエ・デ・シャンゼリゼは戦後フランスの代表的なバレエ団であり、当時はバレエ・ド・モンテカルロなどとともにパリ・オペラ座を凌ぐ勢いを持ったバレエ団であったにも関わらず、十分に研究がなされていない。

筆者の調査では同バレエ団の創作した作品は 36 作品だが、以前不明点が多くあった。当時のプログラム、またバレエ団が公演をした全作品に関する史料、すなわち新聞・雑誌記事を読み解くことが必要であり、本調査ではそれらの史料の閲覧を第一目的とした。

本調査では、バレエ団の実態、上演年や場所、上演作品を始めとし、現在把握できていない部分を明らかにしようとした。昨年度の学生海外調査研究では、筆者はバレエ団結成の契機となり、後にバレエ団の代表的作品であり続け、現在でも再演され続けているプティの振付作品《旅芸人》*Les Forains*、《ランデヴー》*Le Rendez-vous* (1945) を中心に調査した。また、バレエ団の 7 年間の活動のうち前半の上演作品に関しての調査を主に行っていた。本調査によって、可能な限りのバレエ団が創作した全ての作品の詳細とその批評を明らかにすることが出来ると考えた。

### 2. 調査施設

#### 2.1 パリ・オペラ座附属図書館：バレエ・デ・シャンゼリゼ関連資料の閲覧

パリ・オペラ座附属図書館 (Bibliothèque-Musée de l'Opéra National de Paris) は国立図書館の一部でもあり、オペラ座内にあるオペラやバレエ、音楽関連の資料を収める有料の図書館である。所蔵資料をパソコン等検索機で検索することは出来ず、昔ながらのカード式で探して司書の方に資料を依頼して、係の人に運んで来てもらう。すなわち、所蔵資料は、現地に行かないと把握出来ない。

昨年度は主にバレエ・デ・シャンゼリゼのプログラムファイルの閲覧をすることにより、バレエ団の公演日程や演目などある程度把握することが可能となった。また、カンパニーファイル (Dossier Compagnie) を閲覧することにより、新聞・雑誌の批評記事を閲覧、複写依頼を行った。しかしそれだけでは資料として不十分であった。

##### 2.1.1 アーティスト・ファイルの閲覧

今回の調査では、バレエ団に関連した人々の資料アーティスト・ファイル (Dossier d'artist) を主に閲覧することにより、多くの情報を得ることが出来たと言える。

アーティスト・ファイルでは、次のバレエ・デ・シャンゼリゼに関わりの深いダンサー、振付家、作曲家や舞踊批評家の資料を閲覧した。ローラン・プティ Roland Petit, ボリス・コフノ Boris Kochno, ジャニーヌ・シャラ Janine Charrat, アンリ・ソーゲ Henri Sauguet, ジョン・タラス John Taras, ルース・ページ Ruth Page, イレーヌ・リドヴァ Irene Lidova, ダヴィット・リシン David Lichine, マルセル・ベルジェ Marcel Berger, ヴィクトル・グゾフスキー Victor Gsovsky。

ローラン・プティに関するファイルは、プティが昨年度に亡くなるまで精力的に仕事をしていたため、非常に多くあったが、バレエ・デ・シャンゼリゼに属していた 1948 年までの資料を主に閲覧した。そこには、カンパニーファイルには存在しなかったバレエ団やプティの振付に関する新聞・雑誌評を見出すことが出来た。バレエ団の前身であったジャニーヌ・シャラとのリサイタルに関する新聞記事からは、シャラとプティが最初のリサイタルこそ大きな成功には至らなかったが、3 回目の公演

では成功を取めたことが明らかとなった<sup>1</sup>。また、同記事にはプティへのインタビューも掲載されており、プティが47年の年末にはバレエ団を辞めた理由を「性格の不一致による別離？そうかもしれない」と話している。さらに、《悪魔の花嫁》*La Fiancée du diable* (1945)に関する新聞記事<sup>2</sup>、《ユピテルの恋》*Les Amours de Jupiter* (1946)など、価値ある資料を得られた。

《ユピテルの恋》に関しては、プティの振付は表象が豊かで、所作は新鮮で革新的であると評価され<sup>3</sup>、サーカスの遊びやミュージック・ホール風で、プティのダンスにはイタリア風のパントマイムや表情があることもわかった<sup>4</sup>。同シーズンに発表した《ダンス・コンサート》*Concert de Danses*とともに、「(先週の批評をすると)バレエ・デ・シャンゼリゼは宮廷バレエの格調高いスタイルとミュージック・ホールのアクロバティックなスタイルを調和させて組み合わせている」<sup>5</sup>という報告がある。以上の記事から、当時のプティの振付の特徴が後世にも続いていることがわかった。

さらに、《13の踊り》*Treize danses* (1947)の装置や衣裳、あらすじなどがわかった。「一種のカーニバルのパレードの総合のようなもの。馬や馬丁、女騎手、女ピエロや道化師、アルルカンやジル、トランプ占い師、ベルガマスクの飾りのマスクが登場し。群衆には見物人や恋人達、出会いを求める人々がいる」という丁寧な紹介の記事があったことによる<sup>6</sup>。また他の記事からは、この作品が25分であること、名高いクリスチャン・ディオールがデザインした装置に500万フラン、22人のダンサーの衣裳に600万フランの費用をかけたことなどがわかった<sup>7</sup>。

ダヴィット・リシンに関する資料には、バレエ団のプログラムファイルには存在しなかったハウス・プログラム(encyclopedia)が数枚含まれており、48年11-12月のパリシーズンにバレエ団が公演した日程や公演プログラム、その時の初演作品の詳細、初演のダンサーの名前など、様々な情報を得ることが出来た。それが筆者の作成中である、バレエ団関連年表作成に多に貢献した。パリ・シーズンの同時期には、同じシャンゼリゼ劇場にて、バレエ団に関する批評も多い舞踊批評家イヴ・ボナー Yves Bonnat が企画した「バレエ・デ・シャンゼリゼ：衣裳と装置の原画展」も開催しており、展示作品の詳細を掲載した目録も付属していた。

他にはマルセル・ベルジュのファイルの資料は残念ながら一点しかなく、バレエ団に《ダンス・コンサート》を振付けることを報じた記事とその稽古風景の写真<sup>8</sup>を閲覧することが出来た。

ルース・ページのファイルからは、ルース・ページ・バレエ団がニューヨークにて《復讐》*Revanche* (英語では *Revenge*) を公演した新聞記事を見出した。この作品は、1951年に破産寸前に陥ったバレエ・デ・シャンゼリゼを助けようとアンピール劇場でのバレエ団のシーズンにページが補助金を出し、ページ自身がヴェルディの曲《吟遊詩人》*IL Trovatore* から着想を得て振付けをした作品である<sup>9</sup>。ページがその後も自身のバレエ団にてこの作品を多く上演していたこと、そして作品の紹介から、内容などを掴むことが可能となった。

### 2.1.2 作品ファイルの閲覧

アーティスト・ファイルの他には作品ファイル(Dossier d'oeuvre)を閲覧したが、バレエ団が創作した作品の中でも、再演されていない作品は資料がほとんど存在せず、情報がオペラ座付属図書館にもない場合は恐らく他の図書館にも所蔵していないのではないかと考えられる。何点か作品ファイルに存在した資料の調査について述べる。《草上の昼食》*Déjeuner sur l'herbe* (1945)に関する新聞記事が2点<sup>10</sup>あった。

また、《旅芸人》の初演時のセルジュ・リド撮影による白黒の上演写真を4枚閲覧し、新聞記事よりも詳細な初演時の衣裳や踊りを認識することが出来た。

さらに、《出会い、あるいはオイディプスとスフィンクス》*Le Rencontres ou Œdipe et le Sphinx* (1948)のためにアンリ・ソーゲが作曲した楽譜を閲覧することも出来た。楽譜は全32ページで、初演の日時や出演者のダンサーが記され、目次には、AからKまでの11シーンの内容、そしてそれらためのページ数が付されていた。それら11シーンの内容はギリシャ神話に基づいたスフィンクスとオイディプスの出会いとスフィンクスからの3つの質問、そしてスフィンクスの死とオイディプスの出発から成立し、時間は22分とも記されていた。楽譜部分はデジタルカメラで撮影させてもらった。

《草上の昼食》と《出会い》は再演を見ることも叶わない。しかし、初演時の振付家や指揮者などが目を通す楽譜や写真を閲覧することを通じて、音楽や写真、プログラムや批評文に書かれているあらすじ、役名をもとに作品の内容や振付を想像する、そのようなことが可能となる非常に貴重な資料を閲覧することが出来たと考える。

## 2.2 シネマテーク・ド・ラ・ダンス：バレエ・デ・シャンゼリゼ関連映像の視聴

本調査の目的はオペラ座付属図書館での史料調査であったが、シネマテーク・ド・ラ・ダンス(Cinémathèque de la Danse)にも連絡を取り、ローラン・プティとバレエ・デ・シャンゼリゼに関わりの深いダンサー、振付家のジャニーヌ・シャラに関連する映像を視聴させてもらった。

シャラの振付作品の映像に関しては、ドキュメンタリ映像 *Janine Charrat L'instinct de la danse* (Luc RIOLON et Rachel SEDDO, 2001, 54min) や *Janine Charrat* (La Cinémathèque de la Danse, 1h31min) などで確認をすることが出来た。

前者の映像は、シャラが幼い頃から天才少女ダンサーとして名を馳せていたことを示す写真や批評文を示し、後のプティとのリサイタルに関する写真も多く取り上げていた。プティ、リドヴァやバビレ、また舞踊批評家のアントワヌ・リビオ、舞踊ジャーナリストのジュラル・マノニへのインタビュー映像もあり、当時の様子を多角的に知ることができたと言える。マノニは、シャラとプティのリサイタルについて、当時のシャラの人気ぶりを振り返り、コクトーやベラルールなどの芸術家の協力で行われたこの公演を、「戦後の偉大なアーティスト集団」と語っている。また、50年代から現在に至るまでの多くのシャラの振付作品の映像の一部を見る事が出来た。

この映像からの最も大きな収穫は、当時 21 歳のシャラがバレエ・デ・シャンゼリゼに振付けをした《カルタ遊び》*Jeu de Cartes* (1945) の後年の再演映像である。ジャン-シャルル・ジル Jean-Charles Gill がジョーカー役を踊っている以外のダンサー名やカンパニーは不明ではあるが、カラー映像であることから 70 年代以降と考えられる。作品の一部抜粋ではあったが、トランプのそれぞれの役割を役に当てはめた衣裳のダンサー達がストラヴィンスキーの音楽に合わせて軽快に踊る。最もソロ、そしてジャンプが多く活躍するのは、もちろんジョーカーである。当然だが、当時の写真のイメージよりもジョーカー役がはるかに躍動的であることが確認できた。また、装置はこの時の公演では照明によって舞台一面を緑色にし、背景も緑と赤い口にしてトランプのイラストを映し、初演の装置のイメージを再現しようとしていた。リビオはインタビューで、この作品でジャンヌの振付を「天才的」と話す。

一方、後者の映像は、それぞれ 7 点の映像が取り込まれており、最初のテレビ番組でのインタビュー以外は舞台作品ではなく映像のためにスタジオ撮影された作品であった。以下に示す通りである。

1. テレビニュース *Actualités* : シャラへのインタビュー映像
2. ショパンのバラード *Ballade de Chopin* (1951)
3. 愛の夢 *Rêve d'amour* (1951)
4. 昼と夜 *Le jour et La nuit* (1950)
5. 時の流れ *The March of Time* (1952, ballets de France)
6. シャンゼリゼのアメリカ人 *Une Américaine aux Champs-Élysées*
7. ドガの踊り子 *Degas Ballerina* (1947)

やはりシャラへのインタビューからは、プティとの思い出などを語る場面や、振付作品の再演映像などの貴重な映像を確認することが出来た。そして、多くの作品を振付けしているシャラだが、最もフランスで有名であった時代の 1950 年代付近の作品を 6 点見ることによって、シャラの叙情的で女性的な、かつ表情豊かなコミカルさを感じ取ることができた。

また、シネマテーク・ド・ラ・ダンスのスタッフのご好意により、INA と Gaumont Pathe archives というフランスの映像検索サイトからバレエ団に関するテレビ映像を検索し、視聴することが出来た。フランスの過去のテレビ番組を検索出来る INA については知っており過去に検索をしていたが、バレエ・デ・シャンゼリゼに関する映像は出てこなかった。しかし、そのスタッフによると、どちらのサイトも有料の会員登録をすることにより、より詳細な検索が可能であるという。スタッフが会員になるための料金は高いので、自分のアカウントで検索すると良い、とその場で提案をして下さり実現可能となった。

後者の web サイトには《若者と死》*Le jeune homme et la mort* (1946) の映像しかなく、それは既知のものであった。

INA のサイトからは、非常に貴重なテレビニュースの中のバレエ団に関する映像を 5 点視聴することができ、それは大きな収穫であった。下記の通りである。

1. パリの新しいもの *Les nouveaux de Paris* (番組名 *Les Actualités Françaises: Paris*, 19/10/1945, 01MIN 12SEC) 新しいバレエ団の紹介バレエ・デ・シャンゼリゼの稽古風景。
2. サルブルッケンにいるバレエ・デ・シャンゼリゼ *LES BALLETS DES CHAMPS ELYSEES A SARREBRUCK* (*Les Actualités Françaises*, 30/10/1947, 数秒) ツアー中のドイツのサルブルッケンのこと
3. パリのクチュールとバレエ・デ・シャンゼリゼ *COUTURE PARISIENNE ET BALLETS DES CHAMPS ELYSEES* (*Affiche Ballets des Champs Elysées*), (*Les Actualités Françaises*, 01/01/1948, 05SEC) 新作の 13 の踊りのバレエ団のポスター
4. パリのクチュールとバレエ・デ・シャンゼリゼ *COUTURE PARISIENNE ET BALLETS DES CHAMPS ELYSEES* (*JOURNAL NATIONAL Rubrique: "LA SAISON DE PARIS"*) (*Les Actualités*

Françaises,01/01/1948,2MIN 52SEC) バレエ団のパリ・シーズンの新作《13の踊り》の映像。

5. ベルリンにいるパリのバレエ・デ・シャンゼリゼー団 La troupe des ballets des Champs Elysees de Paris à Berlin (Kurfurstendazm,01/01/1949,29SEC) ベルリンにツアー中のバレエ団の PR

Les Actualités Françaises は、1945年1月から1969年2月に放送されていたフランスのニュース番組であり、それぞれ数分秒の映像ではあるが、バレエ・デ・シャンゼリゼが当時のニュース番組で取り扱われていた。それらテレビ・ニュース番組からは、やはりバレエ団が注目されていた存在であったことが読み取れる。

また、《13の踊り》の舞台映像により、装置や衣裳などがわかり、アルルカンの格好をした男性などサーカスのようなお祭りの雰囲気を出していることがわかった。滞在中に調査した作品の内容とともに、この作品に関して知り得たことは多かった。

### 3. 公共情報図書館での本の閲覧と複写

ポンピドゥー芸術文化センター内には、公共情報図書館 (Bibliothèque Publique d'Information) がある。そこは開架式図書館であり、誰でも無料で閲覧することが可能な場所である。筆者は購入できない古い本や、重過ぎて現地で購入するのを躊躇する本を数点、一部複写をした。

### 4. 考察

舞踊評論家のイレヌ・リドヴァシャラとプティはサル・プレイエルにて舞踊評論家のイレヌ・リドヴァの主催によるリサイタルを1942, 1943, 1944年の3度開催した。2人は舞踊に関心のある人々の間で神童と呼ばれ、最初のリサイタルこそ大きな成功には至らなかったが、3回目の公演では成功を収めた<sup>11</sup>。

プティは2回目のリサイタルの稽古の時には、シャラのダンスに対する思想を、「私の目指す方向と美学的に一致したわけではなかった。シャラの世界は苦しみのそれで、正確には私が表現したいものとは違うもの」<sup>12</sup>と感じ取り、よりプティ自身の色を濃くした作品を発表した。当時、プティはアメリカ文化に憧れ、アメリカの映画やジャズ、ミュージック・ホールのレビューに夢中であった。その影響は次第にプティの作風に反映され、プティは作品にレビュー的要素を取り込むようになる。また、その娯楽性や壮さや斬新さ、エロティックな面が後にプティを世界的に有名にしたとも言える。シャラの振付作品にも娯楽性の高いものはあったとしても、プティに比べるとより内面性に重きを置き、叙情的であったと言えよう。

本調査で閲覧した当時の新聞評の中には、前述したように、1946年に「バレエ・デ・シャンゼリゼは宮廷バレエの格調高いスタイルとミュージック・ホールのアクロバティックなスタイルを調和させて組み合わせている」という報告がある。以上の記事からも、すでに当時のプティの振付の特徴が、後世の振付スタイルと変わらないことがわかる。それらの特徴はシャラとのリサイタルの時には始まっていたと言えよう。

つまり、プティの振付スタイルはすでに46年にはクラシック・バレエとミュージック・ホール、すなわちレビュー的要素を混合させたものであった。また、その振付が恐らく巧妙で、プティ自身の踊りも優れて魅力的だったために、批評家や知識人達もすぐに受け入れることが出来たのだろう。前衛性、斬新さがあったというよりは、クラシック・バレエを基本にしつつも人々を楽しませる、洒落て色気のあるキャバレー的要素を取り込むことに成功した。プティはそうすることによってバレエを侮辱したとも言われることなく、どちらかという、バレエの敷居を下げたとも言えるのではないか。舞台があり、観客の入る劇場小屋という点では共通点があるが、それがムーラン・ルージュではなく、シャンゼリゼ劇場で行われることで人々を魅了した。

《13の踊り》もそれら娯楽要素を取り入れた作品であったということが、今回の調査の新聞評と映像視聴により明らかとなった。

バレエ・デ・シャンゼリゼの創作した作品の中でも現在も再演され続けているのは《旅芸人》、《ランデヴー》、《若者と死》である。今回の調査によって現在は再演されていないものの、バレエ団が解散した後も他のカンパニーによって再演されていた作品《カルタ遊び》と《復讐》を知ることが出来た。恐らく、他の作品も他のカンパニーに引き継がれている可能性がある。さらには当時のテレビニュースに登場するバレエ団の映像の中に《13の踊り》を見つけ、シャラのドキュメンタリ映像からは《カルタ遊び》の再演を見る事が出来たことで、他の再演映像も見つかる可能性がある。今後も調査を続けたい。

## 5. 今後の研究へ

本調査は移動時間などを除いて実質 8 日間ではあったが、以上のように収穫の多い調査となった。事前に作成していたが不完全であったバレエ・デ・シャンゼリゼに関する年表とレパートリー表をより充実させることが可能となった。今回の調査では、日本に存在しない、また入手不可能な資料を閲覧した。

バレエ・デ・シャンゼリゼについては研究が充分になされていないため、筆者の学位論文での主要テーマとなる。本調査による研究は恐らく学位論文（博士論文）執筆の第 3, 4 章をしめるであろう。

今後は今回の調査研究で得たバレエ団の資料に基づき、収集した一次資料を読み解き、検討と考察をすることにより、バレエ団の全貌を明らかにした上で、このバレエ団の舞踊思想や、1930-40 年代という時代性を考慮して同バレエ団のフランス舞踊史における功績や位置づけを考察する。

もちろん、このバレエ団の作品の創作にはバレエ・リュスや他の文化の影響も多大にあると考えられるため、バレエ団の作品を考察する上でバレエ・リュスの作品の調査や同時代の他の文化の研究も必要である。さらに、バレエ団が与えた他のバレエ団、ダンサー、振付家の影響も考察したい。

本調査で現地での調査は最後にしたいと考えていたが、シネマテーク・ド・ラ・ダンスのスタッフに偶然バレエ・デ・シャンゼリゼのテレビ映像を検索して貰い、そのような偶然に感謝した。また、そのスタッフからは次回渡仏した折には（帰国前日に話しているため）、《出合い》を初演で踊ったレスリー・キャロンを紹介出来ると思うのでインタビューすると良い、との嬉しいコメントを貰い、やはりまだまだ調査することは残っているので再び訪れなければ、との気持ちを強くした。

筆者の研究は、時代性を考慮して同バレエ団の舞踊史における功績や位置づけを考察する点が独創的、かつ意義ではないかと考えている。このような研究を続けることは、現代の舞踊に引き継がれているもの、そして舞踊という芸術の持つ、人々に与える普遍的な価値について考究できると考える。その意味でも、今回の調査は国際的な女性リーダーの育成に関わる調査研究になったのではないかと自負している。

今回の調査に基づき、今年度の 12 月 1, 2 日に東京大学で開催される第 64 回舞踊学会大会にてバレエ・デ・シャンゼリゼの全貌に関する研究発表をする予定である。また、来年度 3 月末には学会誌『舞踊學』に論文を投稿する予定である。

## 注

1. Max FAVALELLI, 'AVEC L'ARGENT DU MASSIF CENTRAL ROLAND PETIT installe sa compagnie sur le plateau', *La Bataille*, 17-V-1948.
2. Dorothee SAINT MARC, 'Un restaurateur a restauré les plus beaux ballets du monde', *Noir et Blanc*, 18-XII-1946.
3. Maxime CADET, 'Roland Petit, future maître de ballet de l'Opera', *Ordre*, III-1946.
4. Jean SILVANT, 'Les nouveaux ballets des Champs-Élysées-L'Emotion du danseur', 出自不明 1946.
5. Maurice POURCHET, 'La chorégraphie', *Arts*, 15-III-1946.
6. Claude HERVIN, 'Les ballets des Roland PETIT', Paris-Presses, 15-XI-1947.
7. Claude De MANDRES, 'Valse des Millions', *Noir et Blanc*, 19-XI-1947.
8. Pierre MICHAUT, 'Descendu de Tabrin: Marcel Berger lance avec Solange Schwarz, aux Ballets de Roland Petit, sa première création de grand style', 出自不明 7-III-1946.
9. Irène LIDOVA (1992) *Ma vie avec la danse*. Edition Plume: Paris: 97.
10. Maurice BRILLIANT, 'Aux Ballets des Champs-Élysées', *L'aube* 27-X-1945; W,A, 'Le Déjeuner sur l'herbe' *Le Figaro*, 23-X-1945.
11. Marcel SCHNEIDER, *Danse à Paris-Ballets des Champs-Élysées Festival international*, (Paris, 1983), 13
12. Roland PETIT, 'L'Accord du mouvement et de la musique', Gérard MANNONI (ed.) *Roland Petit- Ouvrage conçu et réalisé*. (Paris, 1984), 36.

## 参考文献

- Beaumont, Cyril (1955) *Ballets: past & present*. Putnam: London.
- Bertrand Dorléac, Laurence Tr. to English by Jane Marie Todd (2008) *Art of the defeat: France 1940-1944*. Getty Research Institute: Los Angeles.
- BRASSAI (1964) *Conversations avec Picasso*. Editions Gallimard, Paris.
- Clair Sarah (1995) *Jean Babilée ou la danse buissonnière*. Van Dieren: Paris.
- Guest, Ivor (2001) *Le Ballet de l'opéra de Paris: trois siècles d'histoire et de tradition*. Éd. rev. et augm: Paris.
- Kochno, Boris (1954) *Le ballet avec la collaboration de MariaLuz*. Hachette: Paris.

- Kochno, Boris (1988) *Christian Bérard*, Thames and Hudson: London.
- Lidova, Irène (1992) *Ma vie avec la danse*. Edition Plume: Paris.
- Livio, Antoine (2004 (1970) *Béjart*. L'age d'Homme: Paris.
- Mannoni, Gérard (1984) *Roland Petit-Ouvrage conçu et réalisé*. L'avant-scéné Ballet/ Danse: Paris.
- Mannoni, Gérard (1992) *Roland Petit: Un Choreographe et ses danseurs*. Paris.
- Michaut, Pierre (1950) *Le ballet contemporain 1929-1950*. Plon: Paris.
- Minyama, Philippe (1998) *Jean Babilée*. Marval: Paris.
- Pastori, Jean-Pierre (1997) *La danse, des Ballets russes à l'avant-garde*. Gallimard: Paris.
- Petit, Roland (2003) *Roland Petit: rythme de vie: entretiens avec Jean-Pierre Pastori*. La Bibliotheque des Arts: Lausanne.
- Petit, Roland (1993) *J'ai dansé sur les flots*. Grasset: Paris.
- Schneider, Marcel, Michel, Marcelle, Robin, Jean (1983) *Danse à Paris-Ballets des Champs-Élysées Festival international*. Dell'arte: Paris.
- Williamson, Audrey (1958) *Ballet of 3 decades*. Rockliff: London.
- Aloff, Mindy (1983) REVIEW. *Dance magazine* 11:20-26.
- Bonnat, Yves (1945) Les Ballets des Champs-Élysées. *Peuple* 27.10.
- Bonnat, Yves (1947) Les Ballets des Champs-Élysées-des Souvenirs et des projets, *La Revue de la Danse* no.2.
- Buckle, Richard (1948) Les Ballets des Champs-Élysées. *The ballet annual* v.2:90-97.
- Christout, Marie-François (2004) Les Ballets des Champs-Élysées: A Legendary Adventure, *Dance Chronicle*, Vol,27 : 157-198.
- FAVALELLI, Max (1948) AVEC L'ARGENT DU MASSIF CENTRAL ROLAND PETIT installe sa compagnie sur le plateau. *La Bataille* 17.05.
- Hervin, Claude (1945) «Le Rendez-vous», «Les Forains» et une œuvre inedited de Strawinsky...seront au programme des "Ballets des Champs-Élysées", *Paris-Presse*, 3.10.
- Hervin, Claude (1946) 'Après avoir séduit le "Tout-Paris" Evadé de L'Opera : Roland Petit va faire briller a Londres', *Paris-Presse*, 6-IX-1946.
- Hervin, Claude (1946) Après avoir triomphé en Angleterre: Les Ballets des Champs-Élysées danseront ce soir au Festival de l'U.N.E.S.C.O. *Paris-Presse* 25.11.
- Joly, G (1945) Les Ballets des Champs-Élysées. *L'Aurore* 17.10.
- Jourdan-Morhange, Hélène (1945) Ballets" des Champs-Élysées. *Fraternité* 24.10.
- J.Pendleton, Edmund (1947) Music in Paris-Ballets des Champs-Élysées. *Herald Tribune* 15-11.
- LASSEAUX, Marcel, 'Costumes de Danse', *Images de France*, 1944.
- Lugnet, René (1945) Les Ballets au theatre des Champs-Élysées. *L'Ordre* 16.10.
- Luquet, René (1945) Les "Ballets" des Champs-Élysées. *Ce Soir* 20.10.
- Manuel, Roland (1945) Les Ballets des Champs-Élysées. *Combat* 16.10.
- Manuel, Roland (1945) La Danse : Les Ballets des Champs-Élysées. *Les Lettres Françaises* 27.10.
- Manuel, Roland (1946) La Musique: Les Ballets de Roland Petit. *OPÉRA* 20.02.
- Merlin, Olivier (1947) La Danse: Le Portrait de Don Quichotte et Les Ballets des Champs-Élysées. *Une semaine dans le Monde* 29.11.
- Pourchet, Maurice (1946) La chorégraphie. *Arts* 8.03.
- Pourchet, Maurice (1946) La chorégraphie. *Arts* 15.03.
- Pourchet, Maurice (1947) Les Ballets des Champs-Élysées. *Arts* 21.11.
- Sauguet, Henri (1945) Soirées de Ballets. *La Bataille* 28.06.
- Sauguet, Henri (1945) La Danse: Les Ballets des Champs-Élysées. *Paris-Presse* 25.10.
- Silvant, Jean (1945) Les Ballets des Champs-Élysées. *Spectateur* 17.10.
- Silvant, Jean (1946) Les Nouveaux Ballets Des Champs-Élysées. *Spectateur* 6.03.
- Silvant, Jean (1946) 'Les nouveaux ballets des Champs-Élysées-L'Emotion du danseur'.

#### Program

- Recital de Danse*. 15.04.1943: Paris.
- Soirée de Ballets*. 22.12.1944: Paris.
- Soirée de Ballets* Ed.Chêne.06.1945: Paris.
- Les Ballets des Champs-Élysées* Ed.Mercure.12.10.1945: Paris.
- Les Ballets des Champs-Élysées* Ed.Mercure.17.03.1946: Paris.
- Les Ballets des Champs-Élysées* 1946 Ed.Mercure.05.04.1946: Paris.

*Les Ballets des Champs-Élysées*1946 Ed. Aljanvic.1946: Paris  
*Les Ballets des Champs-Élysées*1946-1947 Ed.Aljanvic.19.12.1946: Paris.  
*Les Ballets des Champs-Élysées*1948 Ed.Mercure.06.11.1948: Paris.  
*Les Ballets des Champs-Élysées*1949 Ed.Mercure.19.04.1949: Paris.  
*Les Ballets des Champs-Élysées* 1949-50 Ed.Mercure.7.11.1949: Paris.  
*Les Ballets des Champs-Élysées* Ed.Mercure.12.06.1950: Paris.  
*Les Ballets des Champs-Élysées*1951 Ed. Mercure.3.10.1951: Paris  
*Ballet de L'opéra Picasso et la danse* 1993 : Paris.  
*Ballet de L'opéra Roland Petit* 9.2010: Paris.

ふかさわ なつみ／お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻

### 指導教員によるコメント

深澤南土実さんの海外調査研究は、パリ・オペラ座附属図書館におけるバレエ・デ・シャンゼリゼに関する全史料を網羅することが目的であった。これまで2回の調査によってバレエ・デ・シャンゼリゼに関する当時のプログラム等の史料は収集できていたが、本調査においてはアーティスト・ファイルや作品ファイルの閲覧を通してより詳細な史料の収集を試みた。また、シネマテーク・ド・ラ・ダンスにも連絡を取り、バレエ・デ・シャンゼリゼとローラン・プティに関連する映像の視聴も行えたことも、博士論文執筆に関して非常に有益な収穫であったと考える。本調査で得られた史料を用いた研究は、博士論文の中核をなすものになるであろう。また、12月に開催される第64回舞踊学会大会で発表を予定している。さらに、この研究を深化させることによって舞踊学への貢献を期待している。

(お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 (文化科学系)・猪崎 弥生)